

## ■教養教育科目

科目名	授業の目的・到達目標
哲学	<p>&lt;授業の目的&gt; 現代の倫理的問題（社会問題）を感じて広げて、適切に対応するため、哲学的アプローチを試みる。</p> <p>&lt;到達目標&gt; 現代の倫理的問題の背景としてある思想・価値観を知り、自分なりの判断基準を説明できるようにする。</p>
国語・国文学	<p>&lt;授業の目的&gt; 我が国の伝統と文化に対する理解を深め、人間・社会・自然などについて考察し、自らの考えをよりよく表現できる力を『竹取物語』を精読する中で、養おうとするものである。</p> <p>&lt;到達目標&gt; 文脈に即して、書かれている内容を理解することを基礎として、自らの思索や調査を表現する力をつけるとともに、他者との主体的で対話的な学びを深めるとともに、言語を駆使する訓練を通して伝え合う力を向上させることを到達目標とする。</p>
日本の伝統美学Ⅰ	<p>&lt;授業の目的&gt; 多様な人々と協働し学び続ける力を身につけるため、日本の伝統工芸の結集であり、総合芸術であり、又、茶禅一味と言われ、精神的にもより高度な茶道を実習を通して学ぶ。</p> <p>&lt;到達目標&gt; 茶の精神を少しでも理解し、より良き社会人となる。</p>
日本の伝統美学Ⅱ	<p>&lt;授業の目的&gt; 多様な人々と協働し学び続ける力を身につけるため、文字の均整、均衡を理解し、文字を正しく美しく、体裁をよくまとめて書く。 特に社会に出て文字を書く場面に出会った時、困らない様に学習する。</p> <p>&lt;到達目標&gt; 自分の名前、住所などが楷書、行書で正確に書けるようになる。 日常的によく使う文字や、葉書、履歴書を美しく書けるようになる。</p>
史学	<p>&lt;授業の目的&gt; 感じ広げる力を身につけるため、「故事成語の中国古代史」に関する理解を深める。</p> <p>&lt;到達目標&gt; 中国古代の歴史は、外国の歴史ではありますが、そこでの物語りや故事成語は、漢字文化圏でのかつての一般的な「教養」として、わたしたちの文化や生活にも結構かたちを変えて残っています。 この授業では、こうした「故事成語」などから、戦国から漢代にかけての時代を中心とした、中国古史の大まかな流れを理解できるようになります。</p>
法学	<p>&lt;授業の目的&gt; 人命を尊重する意識を高めるため、学生が法の主要分野に関する基礎的な知識を得ることを目的とする。</p> <p>&lt;到達目標&gt; 学生が法の主要分野について学ぶことにより、「契約自由の原則」や「罪刑法定主義」などの、現在の我々の生活を取り巻く法の基本原則を理解することができる。</p>
日本国憲法	<p>&lt;授業の目的&gt; 学生が、我が国の基本法である日本国憲法に対する理解を深めることの手助けをするのがこの授業の目的である。</p> <p>&lt;到達目標&gt; 学生が日本国憲法に対する興味を持つようになる。</p>
社会学	<p>&lt;授業の目的&gt; 曖昧で掴みどころのない「社会」を把握するための道具となる社会学的な概念を学び、身の回りにある社会事象を社会学的視点から理解できるようになる。</p> <p>&lt;到達目標&gt; 社会学的概念を駆使しながら、身の回りの社会事象を批判的かつ客観的に把握・理解し、説明することができる。</p>

心理学	<p>&lt;授業の目的&gt;          広い視野から人命を尊重し、その責任感と倫理観に基づいて、キャリア形成基礎力を発揮する専門的職業人として活躍するため、人間形成や対人関係のあり方、さらには社会現象の理解につなげ、社会適応を促進するための知識と測定方法を理解し活用することができるようになる。</p> <p>&lt;到達目標&gt;          社会の状況を積極的に受け入れ、倫理的な観点から考えて行動するため、心理学に関する理論を自らの体験や日常生活で見られる事例を踏まえながら説明し、自らの将来計画に活かすことができる。</p>
化学	<p>&lt;授業の目的&gt;          専門的職業人として生体と医療材料を化学的に理解することを目的とする。</p> <p>&lt;到達目標&gt;          大学1年レベルの基礎化学の問題を解くことができる。基礎化学生体内で起こる現象と材料の特徴を化学的に説明できる。</p>
生物学	<p>&lt;授業の目的&gt;          学生が動植物・微生物の生命現象にかかわる基礎的な事項を十分に理解する。</p> <p>&lt;到達目標&gt;          身のまわりの自然現象・生命現象について科学的および論理的に考察できる思考を習得できる。</p>
物理学	<p>&lt;授業の目的&gt;          「身のまわりの現象から物理学を理解する」をテーマに、私たちが日常経験するさまざまな現象が物理学の法則によって説明されることを学ぶ。数式は最小限にして、法則の物理的意味の理解に重点を置く。特に、医療の世界でも物理学が重要な役割を果たしていることを理解する。</p> <p>&lt;到達目標&gt;          力学・熱学・波動・電磁気学などの古典物理学の初歩的な知識を習得し、その概要を説明することができる。</p>
情報科学Ⅰ	<p>&lt;授業の目的&gt;          健康の保持・増進に貢献する実践的な能力を備えるためのリテラシーかつ、社会人として基礎的な情報処理能力を養う。課題演習を通して、主体的に学ぶ姿勢を身に付ける。栄養士に必要な基礎的な情報スキルを身に付ける。</p> <p>&lt;到達目標&gt;          パワーポイントの学習を通して、効果的なプレゼンテーションの考え方を身に付けるとともに、課題に従った発表資料を作成することができる。エクセルの学習を通して、表計算ソフトの考え方を理解し、課題に従った効率よい作業ができる。</p>
情報科学Ⅱ	<p>&lt;授業の目的&gt;          健康の保持・増進に貢献する実践的な能力を備えるためのリテラシーかつ、社会人として十分な情報処理能力を養う。課題演習を通して、主体的に学ぶ姿勢を身に付ける。栄養士に必要な情報スキルを身に付ける。</p> <p>&lt;到達目標&gt;          パワーポイントの学習を通して、効果的なプレゼンテーションの考え方を身に付けるとともに、課題に従った発表資料を作成することができる。エクセルの学習を通して、表計算ソフトの考え方を理解し、課題に従った効率よい作業ができる。</p>
文化比較	<p>&lt;授業の目的&gt;          「異文化理解」「多文化共生」「比較文化」をキーワードに、かつて世界で活躍した先人（高知県出身者を含む）の生き方を参考に、グローバル化が進む現代において、心得ておかなければならないことを学ぶ。</p> <p>&lt;到達目標&gt;          国際人としての知識を身に付け、グローバル化社会に対応できる。</p>
英語ゼミⅠ	<p>&lt;授業の目的&gt;          Students will become more internationalized by broadening their reading knowledge/understanding of other cultures/countries &amp; mastering English language skills.</p> <p>&lt;到達目標&gt;          Students will acquire a better understanding of culture &amp; language by reading/discussing stories/folktales in English from different countries &amp; doing individual/group research.</p>

スポーツ科学ゼミ I	<p>&lt;授業の目的&gt;          スポーツをめぐる様々な事象（遊び、祭り、健康観、身体観などを広く含む）に注目する。問題解決力や論理的思考力、コミュニケーション能力を高めるために、受講生は自ら選定したテーマについて調査研究と討議を行うことができるようになる。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分史とスポーツとの関わりを振り返りながら、研究テーマを選定することができる。</li> <li>・テーマに合った調査方法を選択して情報・資料を収集し、進捗状況を報告することができる。</li> <li>・調査した内容をレポートにまとめ、研究発表と質疑応答を行うことができる。</li> </ul>
情報科学ゼミ I	<p>&lt;授業の目的&gt;          健康の保持・増進に貢献する実践的な能力を備えるためのリテラシーを培うとともに、日本語ワープロ検定への挑戦を通して、情報技術とその仕組みを理解し、課題に従って、必要な入力、書式等の設定ができるようになる。また、時間内に処理ができるようになる。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <p>学習履歴の分析の重要性を認識することができる。学習内容を、順序だててレポート作成できる。</p>
英語ゼミ II	<p>&lt;授業の目的&gt;          Students will become more internationalized by broadening their reading knowledge/understanding of other cultures/countries &amp; mastering English language skills.</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <p>Students will acquire a better understanding of culture &amp; language by reading/acting out/explaining stories/folktales in English from various countries &amp; doing individual/group research.</p>
スポーツ科学ゼミ II	<p>&lt;授業の目的&gt;          スポーツをめぐる様々な事象（遊び、祭り、健康観、身体観などを広く含む）に注目する。問題解決力や論理的思考力、コミュニケーション能力を高めるために、受講生は自ら選定したテーマについて調査研究と討議を行うことができるようになる。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分史とスポーツとの関わりを振り返りながら、研究テーマを選定することができる。</li> <li>・テーマに合った調査方法を選択して情報・資料を収集し、進捗状況を報告することができる。</li> <li>・調査した内容をレポートにまとめ、研究発表と質疑応答を行うことができる。</li> </ul>
情報科学ゼミ II	<p>&lt;授業の目的&gt;          健康の保持・増進に貢献する実践的な能力を備えるためのリテラシーを培うとともに、表計算検定への挑戦を通して、情報技術とその仕組みを理解し、課題に従って、必要な入力、関数の設定ができるようになる。また、時間内に処理ができるようになる。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <p>学習履歴の分析の重要性を認識することができる。学習内容を、順序だててレポート作成できる。</p>
英語ゼミ III	<p>&lt;授業の目的&gt;          Students will become more internationalized by broadening their reading/research knowledge/understanding of other cultures/countries &amp; mastering English language presentation skills.</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <p>Students will acquire a better understanding of culture &amp; language by reading, doing research, &amp; giving presentations in English in groups &amp; individually.</p>
スポーツ科学ゼミ III	<p>&lt;授業の目的&gt;          スポーツをめぐる様々な事象（遊び、祭り、健康観、身体観などを広く含む）に注目する。問題解決力や論理的思考力、コミュニケーション能力を高めるために、受講生は自ら選定したテーマについて調査研究と討議を行うことができるようになる。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分史とスポーツとの関わりを振り返りながら、研究テーマを選定することができる。</li> <li>・テーマに合った調査方法を選択して情報・資料を収集し、進捗状況を報告することができる。</li> <li>・調査した内容をレポートにまとめ、研究発表と質疑応答を行うことができる。</li> </ul>

情報科学ゼミⅢ	<p>&lt;授業の目的&gt; 健康の保持・増進に貢献する実践的な能力を備えるためのリテラシーを培うとともに、1. 情報科学に関する知識の学習、情報処理技術の向上、2. 自主的な調査研究の体験、3. 活動内容的確な伝達、この3点を目的として自主的な活動を中心とした演習を行い、興味・関心に応じ、教員と相談の上テーマを設定し、個別またはグループに分かれて取り組むなかで情報技術を活用することができるようになる。</p> <p>&lt;到達目標&gt; ポートフォリオとしてまとめ、発表することができる。</p>
英語Ⅰ	<p>&lt;授業の目的&gt; Students will become more internationalized by acquiring the knowledge &amp; mastering basic English language skills (vocabulary, English expressions &amp; grammar) to express themselves &amp; communicate in English.</p> <p>&lt;到達目標&gt; Students will study basic English vocabulary &amp; expressions about everyday topics by reading, writing &amp; speaking (role-playing).</p>
英語Ⅱ	<p>&lt;授業の目的&gt; This is an elementary level course that aims to improve the student's English comprehension and Speaking skills.</p> <p>&lt;到達目標&gt; The activities are designed to give you confidence confidence in using the English language patterns and vocabulary that you studied in high school.</p>
現代スポーツ論	<p>&lt;授業の目的&gt; 学生が身につけるべき教養の一つとして、現代スポーツに注目する。日々のスポーツ・ニュースやスポーツ映像の検討を通して、社会・文化とスポーツとの様々な関わりについて考察できるようになる。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代スポーツの特徴についての基礎知識を身につけ、それらを具体的に説明することができる。</li> <li>・自分自身が関心を抱くスポーツについての出来事を現代スポーツの一事例としてとらえ、その特徴について考察し、レポートにまとめ報告することができる。</li> </ul>
運動と健康	<p>&lt;授業の目的&gt; 教養教育の構成分野「運動と健康」において、特に運動と健康のかかわりについて理解を深めることが目的である。生涯スポーツ社会を生きていくうえで、基本的な運動を実践することによって健康増進を図るための知識・技能・態度を身につけることができるようになる。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業で取り上げた問題に関する基礎知識を身につけ、それらを具体的に説明することができる。</li> <li>・3種類の運動（ストレッチング運動、有酸素運動、レジスタンス運動）を正しく実践できる。</li> <li>・自分の生活スタイルと健康状態を顧み、「運動」による健康増進計画を立案し、試行した結果をレポートにまとめて報告することができる。</li> </ul>
生涯スポーツ実技	<p>&lt;授業の目的&gt; 初心者でも手軽に競技できるフライングディスク、ソフトバレーボール、フットサル等の実技を通して「生涯スポーツ」の理念を理解し、他者と協働して取り組む姿勢や生涯にわたってスポーツに親しみ楽しんでいく積極的態度を身につけることができるようになる。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・用具の準備、ウォームアップ、練習、試合、クールダウン、用具の片付け、自己評価という一連の授業内容を、自主的に、安全に、互いに協力して行うことができる。</li> <li>・自己評価ペーパーをもとに自分自身の学習成果と課題について考察することができる。</li> </ul>
キャリア形成演習	<p>&lt;授業の目的&gt; 自身の将来の生き方等を選択することができる能力を養う。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①キャリア形成基礎力「感じ、広げる力」「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」を身に付ける。</li> <li>②生活科学学科での学びを更に深めるために、関連する職業に就いての実社会での活動</li> </ol>

を知り、大学での学びが社会において持つ意味に気づくことができる。

■ 専門教育科目

科目名	授業の目的・到達目標
栄養学Ⅰ	<p>&lt;授業の目的&gt; 健康に生きていくために、食物やその成分の役割、生体内における変化や機能など栄養学における基礎について理解し、健康の保持・増進、疾病の予防や治療に不可欠である栄養の役割について適格に判断できるようになる。</p> <p>&lt;到達目標&gt; 栄養素の栄養や生体内における代謝や機能を関連させて考えることができる。また、専門用語を知識として習得し、相互に関連づけて説明することができる。</p>
栄養学Ⅱ	<p>&lt;授業の目的&gt; 栄養学Ⅰで学んだ栄養に関する知識をもとに、様々なライフステージやライフスタイルごとの特徴に適した栄養補給について理解し、効果的な栄養ケアマネジメントの方法が修得できる。</p> <p>&lt;到達目標&gt; 対象者の状況に応じた栄養管理についての理解を深め、栄養アセスメントにより栄養状態を把握し、適切な栄養管理法を選択できる。</p>
栄養学実習	<p>&lt;授業の目的&gt; 栄養学Ⅱで学んだ栄養に関する知識をもとに、身体状況や各ライフステージの栄養状態に応じた栄養マネジメントが展開できる技術を習得することを目的とする。</p> <p>&lt;到達目標&gt; 各ライフステージの特性と問題点に基づいて、その特性に適した栄養ケアの在り方を具体的に理解し、調理できる実践力を身につけることができる。</p>
臨床栄養学概論Ⅰ	<p>&lt;授業の目的&gt; 食・栄養に関わる専門的知識を体系的に身に付けるため、傷病者および要介護者に対する栄養ケア・マネジメントの基礎知識、食事と医薬品の相互作用に関する知識、チーム医療における栄養士の役割について習得する。</p> <p>&lt;到達目標&gt; 傷病者について理解を深め、医療に従事する者としての心構えと基本的な専門知識を習得し、栄養ケア・マネジメントを説明することができる。</p>
臨床栄養学概論Ⅱ	<p>&lt;授業の目的&gt; 本授業では、疾患の成り立ちと栄養学的問題について理解し、臨床栄養学の視点から各病態の悪化を防ぎ、改善につなげるために、消化管疾患、肝臓・胆・膵疾患・内分泌疾患等の各概念、病態、治療、栄養管理を中心とした各疾患の食事療法等について理解する。</p> <p>&lt;到達目標&gt; 健康の保持・増進への貢献と食・栄養・健康の専門家としての情報発信ができる栄養士として、臨床における疾患の概念、病態、治療と栄養管理および疾患別に対応した食事療法について理解し、栄養管理方法を習得する。</p>
臨床栄養学実習	<p>&lt;授業の目的&gt; 栄養士を基盤とした専門家としてのキャリア形成に対する意識を持ち、コミュニケーション能力と協働の姿勢を有し、栄養と健康の情報発信力を身に付けるため、臨床栄養管理に関する食事療法の技術を習得する。</p> <p>&lt;到達目標&gt; 食事療法における献立の展開ができる。</p>
公衆栄養学概論	<p>&lt;授業の目的&gt; 地域や医療・福祉等の組織の中で連携・協働して健康で豊かな生活を実現する実践力を備えるため、集団や地域における人々の健康・栄養状態や社会・生活環境の特徴に基づいた公衆栄養活動に関する基礎知識および栄養行政に関わる各種法律を理解する。</p> <p>&lt;到達目標&gt; 公衆栄養活動を説明することができる。栄養行政に関わる各種法律とその活用法を説明することができる。</p>
食品学Ⅰ	<p>&lt;授業の目的&gt; 健康の保持・増進に貢献するため、食に関わる知識を適切に活用することができる専門的職業人として活躍するため、食品に含まれる成分の性質、嗜好成分、機能性食品について理解し、活用できるようになる。</p> <p>&lt;到達目標&gt; 食に関わる専門的知識を日常生活で摂取している食品を例にとり説明するとともに、健康維持・増進を支える成分が食品の中でどのような形（分子構造）をしているのか説明す</p>

	ることができる。
食品学Ⅱ	<p>&lt;授業の目的&gt; 健康の保持・増進に貢献するため、食に関わる知識を適切に活用することができる専門的職業人として活躍するため、食品に含まれる成分の特徴、さらには、その成分が調理・加工の際にどのように変化するのか理解し、活用することができるようになる。</p> <p>&lt;到達目標&gt; 食に関わる専門的知識を日常生活で摂取している食品を例にとり説明するとともに、健康維持・増進を支える成分が調理・加工により変化することにより、食品加工にどのように生かされているのか説明することができる。</p>
食品学実験	<p>&lt;授業の目的&gt; 人々の健康の保持・増進に貢献する専門的職業人として、食品成分の性質や環境条件によるその変化等を実証的に理解し、これら食に関する知識を適切に活用することができるようになる。また、成分分析の基本となる定性分析、定量分析についても理解し、活用することができるようになる。</p> <p>&lt;到達目標&gt; 食に関わる専門的知識を、日常生活において摂取している食品を例示しながら説明できる。さらに健康維持・増進を支える食品成分の化学的性質や調理条件及び時間による成分変化等について説明することができる。</p>
食品衛生学	<p>&lt;授業の目的&gt; 健康の保持・増進に貢献するため、食に関わる知識を適切に活用することができる専門的職業人として活躍するため、生産から最終消費までの過程における食品の安全性確保や衛生管理の方法、さらには食品の表示基準等の関係法規について理解し、活用することができるようになる。</p> <p>&lt;到達目標&gt; 食の安全性に関わる専門的知識を食中毒や環境汚染、表示違反等を例にとり説明するとともに、その予防法や日常生活における注意点、安全性に関わる法改正について説明することができる。</p>
食品衛生学実験	<p>&lt;授業の目的&gt; 健康の保持・増進に貢献するため、食に関わる知識を適切に活用することができる専門的職業人として活躍するため、表示違反に関する品質検査、食品添加物、食品の安全性に関する洗浄・腐敗・酸敗について理解し、活用することができるようになる。</p> <p>&lt;到達目標&gt; 食の安全性に関わる専門的知識を日常生活で摂取している食品を例にとり説明するとともに、食品の衛生管理や品質管理の方法、食品添加物の使用状況、成分表示など食品衛生の重要性について説明することができる。</p>
公衆衛生学	<p>&lt;授業の目的&gt; 健康の保持増進の展開プロセスを知り、疾病の予防、寿命の延長、身体的・精神的健康に関する知識を習得する。</p> <p>&lt;到達目標&gt; 健康の保持増進を達成するために、地域・職域における健康に関する基礎的事項を関連づけることができる。また、集団を対象として、集団の動向から健康を捉え、得られた結果・成果を個人に活用することができる。</p>
社会福祉概論	<p>&lt;授業の目的&gt; 学生が医療・福祉等の組織の中で、連携・協働して健康で豊かな生活を実現する実践力を備えるため社会福祉の基礎理解とともに、社会福祉サービスの各分野についての知識を得る。</p> <p>&lt;授業の目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生が社会福祉サービスを身近なものと感じるようになるとともに、社会福祉の基礎理解を深め説明することができる。</li> <li>・学生が社会福祉の各分野のサービス内容や仕組みを理解し説明することができる。</li> <li>・学生が現代の社会福祉問題について考え説明することができる。</li> </ul>
栄養指導論Ⅰ	<p>&lt;授業の目的&gt; 食・栄養に関わる専門的知識を体系的に身に付けるため、栄養指導の基本的な知識を学ぶ。</p> <p>&lt;到達目標&gt; 栄養指導に必要な基本事項を説明することができる。</p>
栄養指導論Ⅱ	<p>&lt;授業の目的&gt; 栄養士を基盤とした専門家としてのキャリア形成に対する意識を持つため、対象者のアセスメント、栄養指導計画、栄養指導のスキルを習得する。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p>

	<p>栄養指導の方法、スキルについて説明をすることができる。</p>
栄養指導実習Ⅰ	<p>&lt;授業の目的&gt; 健康の保持・増進に貢献する実践的な能力を備えるため、栄養指導論において学んだ学問的知識を実践することで、より理解を深め、栄養指導の流れを把握する。</p> <p>&lt;到達目標&gt; 栄養スクリーニング、栄養アセスメントを実施して対象者を把握できる。</p>
栄養指導実習Ⅱ	<p>&lt;授業の目的&gt; 自ら課題を立て、その課題に取り組むことができるようになるため、栄養指導対象者の実態を把握し、計画、実施、評価、判定の方法を習得する。</p> <p>&lt;到達目標&gt; 栄養指導計画を作成し、栄養指導を実施することができる。</p>
給食計画論	<p>&lt;授業の目的&gt; 栄養士が特定給食施設を運営する上で必要となる、経営管理、安全・衛生管理、設備管理、作業管理などのマネジメント全般を行うことができるようになる。</p> <p>&lt;到達目標&gt; 特定給食施設において大量調理を行う際に必要となる、あらゆる『ヒト』や『モノ』について説明できる。</p>
給食実務論	<p>&lt;授業の目的&gt; 栄養士が特定給食施設において仕事をする際、理解しておくべき給食に関する事柄を学び、特定給食施設ごとに異なる特徴を理解し、施設の特性に応じた運営を行うことができるようになる。</p> <p>&lt;到達目標&gt; 特定給食施設に関する基礎となる部分、特定給食施設ごとの特徴（目的と役割・対象とする人・実施する給食の形態および内容）などを理解することで、それぞれの施設が行う給食内容の違いを説明できる。</p>
給食計画論実習	<p>&lt;授業の目的&gt; 給食を実施するためには、栄養管理、献立作成、材料管理、作業管理、衛生管理、事務管理などの項目を理解することが欠かせない。これらを統合し給食管理を効率よく実施できるようになる。</p> <p>&lt;到達目標&gt; 給食計画の実際を知り、特定給食施設において栄養士が行う業務について説明することができ、大量調理実習につなげることができる。</p>
給食実務論実習	<p>&lt;授業の目的&gt; 大量調理を行い給食サービスを提供するためには、これまで学習した理論や、実験・実習で得た基礎知識を理解していることが必須である。これらの知識を統合して、効率的に大量調理を行うための的確な判断ができるようになる。</p> <p>&lt;到達目標&gt; 給食を提供するまでの計画、実際に調理する実行、提供した食事に関する評価など、すべての項目を班ごとに分担・実習することで栄養士に求められる企画・運営・管理などの業務ができる。</p>
給食管理実習Ⅰ	<p>&lt;授業の目的&gt; 健康の保持・増進に貢献する実践的な能力を備えるため、各分野の教科において、学内で身につけた基本的な知識が、実際に現場（病院）でどのように応用されているかを学ぶ。</p> <p>&lt;到達目標&gt; 給食運営に関する基本的な業務を理解して実践することができる。</p>
給食管理実習Ⅱ	<p>&lt;授業の目的&gt; 健康の保持・増進に貢献する実践的な能力を備えるため、各分野の教科において、学内で身につけた基本的な知識が、実際に現場（高齢者福祉施設）（学校）でどのように応用されているかを学ぶ。</p> <p>&lt;到達目標&gt; 給食運営に関する基本的な業務を理解して、実践することができる。</p>
調理学	<p>&lt;授業の目的&gt; 食・栄養に関わる専門的知識を体系的に身に付けるため、食事計画から調理操作を経て提供されるまで、様々な分野の内容を理解し、調理を科学的にとらえるための基本的な知識を習得する。</p> <p>&lt;到達目標&gt; 調理操作について科学的に説明をすることができる。</p>

調理学実習Ⅰ	<p>&lt;授業の目的&gt; 食、栄養に関わる専門的知識を体系的に身につけるために、基本的な調理の知識や技術について実習を通して理解することができる。</p> <p>&lt;到達目標&gt; 基本的な調理技術を修得し、調理器具の名称と使い方、食品材料の取り扱い、調理法の特徴、分量の把握や材料の標準的な配合および調味割合等を考え、調理することができるようになる。</p>
調理学実習Ⅱ	<p>&lt;授業の目的&gt; 食生活や食習慣の改善を寄与する実践的能力を身につけるために、調理学実習Ⅰで学んだ基本的な調理の知識や技術をもとに、さまざまな応用への展開を導くことができる。</p> <p>&lt;到達目標&gt; 調理学実習Ⅰの内容に加えて、調理過程における理論と技術との関連性を把握し、栄養と嗜好を考慮した料理の組み合わせなども考え、毎日の食生活に応用できるようになる。</p>
調理学実習Ⅲ	<p>&lt;授業の目的&gt; 調理学実習Ⅰ、Ⅱで学んだ調理の知識や技術をもとに、調理操作で生じるさまざまな食品の変化や調理特性についても理解することができる。</p> <p>&lt;到達目標&gt; 健康の保持・増進への貢献と食・栄養・健康の専門家としての情報発信ができるように本授業では、調理学実習Ⅰ・Ⅱの内容に加えて、調理を主な料理素材別、煮る、焼く、蒸す、揚げるなどの手法別、また、和、洋、中の様式別にとらえて、展開することができるようになる。また、味、食品のテクスチャー、香り、盛り付けなどを含めて相互に理解し、栄養や安全、効率面も含め、より良いものを作るためにはどのように調理を進めていくことが望ましいかを具体的に判断できるようになる。さらに、さまざまな献立において大量調理にも応用、展開することができるようになる。</p>
解剖学	<p>&lt;授業の目的&gt; 人体の構造・機能について、医療における画像にて総合的に理解して、知識を学ぶ。</p> <p>&lt;到達目標&gt; 各種臓器の構造と働きを説明できる。組織の形態の特徴と働きを説明できる。</p>
生理学	<p>&lt;授業の目的&gt; 生理学ではヒトの各臓器の機能について学ぶ。特に食物の消化・吸収がどのようにして行われ、それが栄養となり、健康や生命維持を行っているか、学生は栄養士にとって必要な知識を学ぶことを目的とする。</p> <p>&lt;到達目標&gt; 人体の各器官を学ぶことで栄養学を学ぶ専門人として必要な知識を得る。 解剖学、解剖生理学実習へつながる基礎ができる。</p>
解剖生理学実習	<p>&lt;授業の目的&gt; 少子・高齢化が進行しているわが国では、がんや糖尿病など「生活習慣病」の予防対策は重要課題です。生活習慣病予防には、生活習慣の改善、なかでも食生活のあり方が大切であることから、これからの栄養士・管理栄養士は、より高度な専門知識と技能に基づいた栄養指導など、さまざまな場面での活躍が期待されています。そこで、基本となる「生体のしくみ」を理解します。</p> <p>&lt;到達目標&gt; 個体がおこなう生命現象を統合的に理解し、病気の成り立ちなどを専門知識に基づいて説明することができる。</p>
病理学	<p>&lt;授業の目的&gt; 病気（疾病）が、どのような原因で発生し、どのように人体に影響を与えるのかについて理解する。また、正常な状態と比較して形態や機能にどのような変化が生じるのかについて理解する。</p> <p>&lt;到達目標&gt; 臓器の違いをこえて共通にみられる病気について、その原因や特徴が説明できる。さらに、日本人の死因として重要な病気や罹患率の高い病気について、病態が説明できる。</p>



生化学	<p>&lt;授業の目的&gt; 健康の保持・増進に貢献するため、食・栄養に関わる知識を適切に活用することができる専門的職業人として活躍するため、摂取した食物がどのように消化・吸収・代謝されて、老廃物を排泄するのか、さらに遺伝情報や内分泌系による調節機構について理解し、活用することができるようになる。</p> <p>&lt;到達目標&gt; 食・栄養に関わる専門的知識を日常生活で摂取した食物を例にとり含まれる成分を説明するとともに、消化・吸収された栄養素が生体内でどのように代謝され、排泄されるのか説明するとともに、代謝に関与する酵素やビタミン等についても説明することができる。</p>
生化学実験	<p>&lt;授業の目的&gt; 健康の保持・増進に貢献するため、食・栄養に関わる知識を適切に活用することができる専門的職業人として活躍するため、生体内における消化・吸収・代謝に関与する酵素の性質および比色分析についても理解し、活用することができるようになる。</p> <p>&lt;到達目標&gt; 食・栄養に関わる専門的知識を日常生活で摂取した食物を例にとり説明するとともに、消化・吸収・代謝に関与する酵素が条件（反応時間、pH、阻害剤等）により変化することについて説明することができる。</p>
運動生理学	<p>&lt;授業の目的&gt; 運動は健康づくりに重要な要因であるが、本授業では運動時に起こる身体の変化とそのメカニズムについて理解するとともに、継続的な運動が健康に及ぼす影響についても理解を深める。</p> <p>&lt;到達目標&gt; 1. 基本的な運動生理学的知識を獲得することができる。 2. 運動時に起こる身体の変化に関心を持ちそのメカニズムについて理解する。 3. 健康に対する運動の効果を理解し自らも継続的な運動習慣を身に付ける。</p>
経営学	<p>&lt;授業の目的&gt; 経営学に関する基礎的な知識を身につけ、働くうえでの視野を広げることができる。</p> <p>&lt;到達目標&gt; 様々なケース分析を通して、経営の基礎を理解し、現実への応用力を養う。</p>
学校栄養教育概論	<p>&lt;授業の目的&gt; 児童、生徒を対象に、栄養士としての知識や理論に基づき、食を通して指導を行う栄養教諭が果たす役割を理解する。他の教員との連携や、場面ごとに異なる食育の実際を知ることで、栄養教諭としての資質を高める。</p> <p>&lt;到達目標&gt; 食に関する指導については種々の場面で行うことが想定される。どのような場面であっても、ふさわしい教育目標を設定できるようになることが目標である。また、食事の重要性および心身の健康、食品を選択する能力、感謝の心、社会性、食文化などを理解し、栄養教諭としての自覚や使命、職務の重要性などについて説明することができる。</p>
事務管理	<p>&lt;授業の目的&gt; 「起業」（事業を立案し、実行していくこと）についての基礎知識、手法を理解し、事務管理を遂行するにあたって必要な実践的知識や技術について獲得することを目指す。</p> <p>&lt;到達目標&gt; 幅広いビジネス用語やビジネス文書作成などの事務管理全般を身につけることができる。とくにビジネスプランの作成を通じて自分（自分たち）で考えていく力を養うことができる。</p>
人間関係論	<p>&lt;授業の目的&gt; 栄養士として多様な人々と協働しあうスキルを身につけるため、様々な職域における人間関係についての理解を深め、円滑な人間関係を構築することの必要性を知り、その基礎となる知識を身につける。基本的なマナー、その手法を具体的に学習する。</p> <p>&lt;到達目標&gt; 円滑な人間関係について、自分自身の体験や日常生活を振り返り、基礎となる社会のマナーやその方法などを、正しく身につけて行動することができる。</p>

健康教育演習Ⅰ	<p>&lt;授業の目的&gt; 人命を預かる責任感と倫理観を有し、平和と友愛へ貢献する上で、特に子ども期の健康を支える専門的職業人として活躍するため、食・医・教育の多様な分野から「歯みがき」の指導法についての計画を立て実践する。さらに、学習内容を所属学科・専攻へ持ち帰り、各専門性に活用する視点を養う。</p> <p>&lt;到達目標&gt; 子ども期の歯みがきについて、各専門性と連携しながら、子ども期の健康づくりに貢献できる実践力を身につけ、倫理的な観点から専門的知識と技能を活用して考え抜き、自ら行動することができる。さらに、多様な専門性の視点を自分たちの専門性へ反映することができる。</p>
健康教育演習Ⅱ	<p>&lt;授業の目的&gt; 人命を預かる責任感と倫理観を有し、平和と友愛へ貢献する上で、特に高齢者の健康を支える専門的職業人として活躍するため、食・教育・医療の分野から高齢者の健康の指導法について計画を立て実践する。さらに、学習内容を所属学科・専攻へ持ち帰り、各専門性に活用する視点を養う。</p> <p>&lt;到達目標&gt; 高齢者の健康で心豊かな生活について、各専門性と連携しながら、実践活動を通し地域貢献の意義を理解し、倫理的な観点から専門的知識と技能を活用して考え抜き、自ら行動することができる。さらに、多様な専門性の視点を自分たちの専門性へ反映することができる。</p>

## ■教職専門科目

科目名	授業の目的・到達目標
教職及び教育の制度・経営論	<p>&lt;授業の目的&gt; 学校教育の成否は、児童・生徒の教育に直接携わる教員の資質に追うところが極めて大きい。そこで、教職の制度的側面についての基礎知識の習得とともに、教職の意義や教員の役割について理解を深め、教職への意欲を高める。</p> <p>&lt;到達目標&gt; (1)教育行政の仕組みや教育関係法規について理解することができる。 (2)教員として求められる資質・能力について理解することができる。 (3)今日の学校教育の課題について理解し考察することができる。</p>
教育原理	<p>&lt;授業の目的&gt; 教育とは何か、教育の意義と目的、子ども観と教育、学校教育とその歴史や制度など、教育の基礎的概念と理論について学ぶ。</p> <p>&lt;到達目標&gt; ・教育についての基礎的概念や思想、学校の制度的枠組みなどを説明できる。 ・現代の教育問題について主体的に考え、よりよい教育のあり方を探究することができる。</p>
教育心理学	<p>&lt;授業の目的&gt; 教育心理学の理論と実践の関連を理解することによって、人命を預かる責任感と倫理観を備え、教育に関する多様な問題に対処できる基礎知識・態度を身につけることを目的とする。</p> <p>&lt;到達目標&gt; 人命を尊重し、世界や地域の動向を理解して対応するため、倫理的な観点から教育心理学に関する基礎理論や研究方法を活用して、幅広い分野にわたる心的特性の関連を説明することができる。</p>
教育課程総論	<p>&lt;授業の目的&gt; 教職の意義を知るために、教育課程の編成及び実施、新しい動き等を理解する。</p> <p>&lt;到達目標&gt; ・教育課程とは何か、教育課程の編成及びその実施について説明することができる。 ・日本における教育課程の歴史的変遷や新しい動きを説明することができる。</p>
道徳教育の指導法	<p>&lt;授業の目的&gt; 道徳教育の原理や方法を理解し、道徳教育の実践的指導力を身につける。</p> <p>&lt;到達目標&gt; 1、道徳教育の本質や道徳教育の基本的な在り方を理解する。 2、道徳教育と食育及び健康教育との関連を考察できる。</p>
特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	<p>&lt;授業の目的&gt; 学習指導要領に基づいて、特別活動の果たす役割や意義を学び、総合的な学習の時間の意義を学び、それぞれの目標及び内容を理解する。</p> <p>&lt;到達目標&gt; 1) 特別活動及び総合的な学習の時間の目標、教育的意義を説明することができる。 2) 特別活動及び総合的な学習の時間の各活動・学校行事の目標と内容、指導計画を理解することができる。 3) 特別活動及び総合的な学習の時間における指導ができる。</p>
教育の方法及び技術	<p>&lt;授業の目的&gt; 実践的な教育現場における教材の研究を含めた授業の設計、あるいは評価の問題を考えていく。制作体験やディスカッション・発表体験等を通して自ら課題を立て、その課題の解決に取り組む力を身に付ける。</p> <p>&lt;到達目標&gt; ・協同学習の意義と技法を体験的に学習することでコミュニケーション力を身につける。 ・教えるための情報伝達手段である教育媒体について理解を深めるとともに、情報機器を効果的に活用できる。</p>
生徒指導の理論と方法	<p>&lt;授業の目的&gt; 生徒指導上の諸課題や指導の実際を理解し、生徒指導のあるべき姿について、理論と実際の面を踏まえて、実践できるようになる。</p> <p>&lt;到達目標&gt; 1 生徒指導の特性や意義及び機能を理解し、説明することができる。 2 生徒指導上の諸問題の背景や現状と生徒指導の実際を理解したうえで、望ましい対応の在り方を習得することができる。</p>

教育相談	<p>&lt;授業の目的&gt;  今、学校現場は、いじめ、不登校などといった多くの深刻な問題に直面している。また、対人スキルが低い子どもたちが増えているといわれ、学校現場では予防的・開発的支援の必要性も指摘されている。このような観点から、学校教育相談の実際、学校教育相談に必要な基礎となる理論と技法、特別な支援を必要とする子どもたちへの対応、自己表現やソーシャルスキルの教育について、臨床教育学的な視点を踏まえ学びを深めるために行なう。</p> <p>&lt;到達目標&gt;  1. 子どもの発達上の問題点や人との関わりの問題について理解を深めることができる。  2. 教育相談の理論背景や歴史的経緯、扱う問題領域、技法について理解することができる。  3. 発達上の問題に対する学校保健活動や教育相談活動の在り方を教育との関連から理解することができる。  4. 栄養教諭の職務の特質を生かした学校教育相談活動のあり方について考えることができる</p>
教職実践演習（栄養教諭）	<p>&lt;授業の目的&gt;  教職課程科目の食・栄養に関わる専門的知識・技能及び健康の保持・増進に貢献する実践的な能力を身につけ、栄養教諭としての実践力を高める。</p> <p>&lt;到達目標&gt;  1) 教員としての資質・指導力を養うことができる。  2) 栄養教諭としての実践力を身につけることができる。</p>
栄養教育実習事前事後指導	<p>&lt;授業の目的&gt;  学校教育に関するこれまでの総合的な学習経験をもとに、食生活や食習慣の改善に寄与する実践的な能力を身につけるとともに、自ら課題を立て、その解決に取り組むことを通して、教育実習に必要な知識、技術、心構えについて学ぶ。</p> <p>&lt;到達目標&gt;  1) 教育実習の効果を高めるための準備ができる。  2) 実習後のまとめや情報の共有を行うことができる。</p>
栄養教育実習	<p>&lt;授業の目的&gt;  学校教育に関するこれまでの総合的な学習経験をもとに、栄養教育実習で学ぶことを通して、食生活や食習慣の改善に寄与する実践的な能力を身につけると共に、自ら課題を立て、その解決に取り組む。</p> <p>&lt;到達目標&gt;  1) 学校教育の現状や課題を考察することができる。  2) 栄養教諭の職務を理解し、児童生徒に対する食の指導に必要な知識や実践力を習得することができる。</p>